

4.音楽でも驚くほど効果的な早期教育

三歳児が「メヌエット」を弾く!『鈴木メソード』

幼児にバイオリンを教える『鈴木メソード』によって世界的な評価を得ている、鈴木バイオリンの鈴木鎮一先生は、自身の早期教育についてこう語ります。

「幼児からバイオリンを学習を始めるということは、“そんなに早くから始めるなんて”と、当初はその可否がかまびすしく論議されました。しかし、私は日本語の教育の中で育てば、こんなに難しい日本語もどんな子どもでも赤ちゃんのうちから自然に身につけ、自由に日本語が話せるようになるという事実を土台にして、自分の説を主張してきました。」

あるとき、幼児教育で著名なソニーの井深名誉会長が鈴木先生に、「バイオリンはいつごろから始めるのがいいのですか?」と尋ねたところ、「まあ、バイオリンのテクニックは難しいから、やっぱり4~5才でしょう」と鈴木先生は答えました。ところがその後しばらくして、こんな答えが追加されました。

「鈴木チルドレンの家族を見ていると、その弟や妹が兄や姉より早く3才ごろから始めており、この場合、かならずとっていいほど、兄や姉たちより上手になっています。このことから、実際バイオリンに触れて行う教育は4~5才ごろからスタートするのがいいのでしょうが、レコードを聞かせるなど、音楽に親しむことは生まれてからすぐでも始めた方がいいようです」

※鈴木チルドレンとは、鈴木メソードでバイオリンを習っている子どもたちのことをいいます。

鈴木先生が幼児バイオリン教育を始めたのは、外国に行ったときのある発見からでした。イギリスやアメリカなどの英語圏では子どもたちが苦もなく英語を覚え英語をしゃべっています。フランスへ行ってもスペインに行っても変わりません。

「幼児期には苦もなく言葉を覚えられるのではないかとすれば、一種の音感教育である音楽も幼児期から始めた方がいいのではないかと」

この発想から実践を始め、優秀な教え子を何人も育て上げた鈴木先生は次第に早期音楽教育の祖として世界的な評価を得るようになりました。